

蒼穹

蒼群と共に駅を出ると
空は美しく青かった
この世界はこいつら蒼群のために在るのやもしれぬ・・・
何と奇妙なことよ
もしこいつらが死に絶えたなら
あるいはこの世界は我々に襲いかかる瘴気となるやもしれぬ・・・
あの蒼穹は、こいつら蒼群をこそ愛しているのだろうか
神が貧しき者のみを愛するという
まさに、そのようにして

それにも増して解せぬのはこの俺自身だ
蒼群に触れた手をすぐに洗いたがるくせに
こいつらの死滅した世界を怖れるとは！
こいつらを愛するこの世界を怖れるとは！
俺は、愛され、祭り上げられることを希っているのか
これほどに嫌悪する、こいつら蒼群によって・・・

(1991.6.15)